

令和7年度

運営に関する計画
(最終評価)

大阪市立柏里小学校

(様式1)

大阪市立柏里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、素直で子どもらしさにあふれる児童が多い。柏里地域活動協議会や PTA に関わる皆さんも協力的で子どもたちを地域力で支える基盤ができている。また、昨年度は創立100周年の記念式典や関連する学校行事を全員で協力して無事に終えることができた。

子どもたちの学力面では、「主体的・対話的で深い学びの推進」に向け、教職員の共通理解や一体となった指導体制のもと、子どもの学びの環境を整えていく。また、主体的な学びと言語活動の推進に向け、読書環境は整ってきているので、より主体的に読書する子どもの育成を図る。また、基礎的・基本的な学力の定着が厳しい状況の子どもたちへの支援・指導を主眼として、昼のチャレンジタイム、放課後指導の改善に取り組むとともに、個に応じた課題解決学習の構築と主体的な学び、家庭学習が定着するようにしていく。授業の形式としては、昨年度より中学年以上を対象とした専科指導に転換しながらも今までの習熟度別少人数学習(算数)にも取り組んでいく。

第1教育ブロック学力推進事業、西淀川区の学力推進事業・校長経営戦略支援予算による漢字検定(4・6年生)、英検ジュニア検定(3・5年生)の継続を踏まえ、子どもたちの主体的学びも継続していく。さらにICTの活用については、今年度生成AIパイロット校としてAIを活用した学習指導の研究にも取り組んでいく。

体力面では、運動場の整地、倉庫の用具整理など、環境整備を徹底している。安全で使用しやすい運動場や体育館で、有意義な体育の学習を進めることができていく。また、足が速くなるダンスに取り組み、運動会での準備運動に取り入れている。走るための基礎的な運動を、ダンスに親しみながら習得するようになってきており、昨年度の体力調査では、男女ともに全国平均を上回る項目があり、全体的に少しずつではあるが、体力は向上している。しかし、総運動時間が60分未満の児童がおり、その児童は、体力合計点が低い傾向がみられたことから、まず運動時間の確保から始めることが重要であると考え。体育の学習時間、15分休み、昼休みなどの休憩時間、放課後遊びの時間など、いろいろな時間を運動時間に変えることで、体力合計点はさらに向上すると考えられる。さらに運動することは大切であるという意識が高い児童は体力合計点が高い傾向にあるため、運動することの意味、価値などを体育学習や学級活動、総合的な学習の時間など、あらゆる活動を通して、運動の大切さが伝わるよう児童に働きかけていきたい。

その他の教科・領域についても児童の学力を高めるため、分析を強化し、学力面の取り組みを継続していく。また、家庭学習の時間が不足していることから、家庭との連携を深め、家庭学習の時間を増加させていく。

昨年度からの生活面の課題としては、帰宅後の通信機器使用時間(SNSやゲーム)が大阪市平均の2倍以上に相当するという結果が明らかになり、家庭にも啓発し、具体的な目標視聴時間を設定したことで一定の改善が見られた。具体的には、帰宅後、3時間以上機器を操作している児童が大阪市平均では約32%だったが、本校は約34%という結果になった。まだ市平均を上回っている状態のため今後も継続した取り組みが必要である。また、情報モラル教育も推進していきたい。

中期目標

【安全・安心な教育の実現】

- 本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を20.5%以下にする。
- 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を90%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を92%以上にする。
- 本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を96%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- 小学校学力経年調査における、国語の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を83%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の60%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教職員の割合を75%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を76.5%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

【安心・安全な教育の実現】

年度目標

- 本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を27%以下にする。
- 小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

年度目標

- 小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
*市平均の7割以下
- 小学校学力経年調査における、「毎日、同じくらいの時刻にねて、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

年度目標

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の87%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕
- 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教職員の割合を79%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安心・安全な教育の実現】

本市調査における「学校から帰り、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を27%以下にするという目標に対して、調査結果は現時点で公表されていないが、校内調査「学校で決められた動画視聴の時間を守っている」では、31%の児童が「やや守れていない、守れていない」と否定的な回答をしている。以前は高学年になるにつれて割合が上がっていたが、現在は否定的な回答が全学年に広がっている。学校での指導はもちろんであるが、使用場所である家庭など校外での使用について、児童への指導と家庭との連携を強めていく必要がある。

小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にするという目標に対して85.8%の達成率となった。学年によっては90%を超えているため、キャリア教育などをより一層推進していく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させるという目標に対して、同一母集団で比較すると6年生は25ポイント改善されたもののそれ以外の学年は大きく下回り、基礎基本の学力に関して課題が明らかになった。今後、さらなる授業改善と補充学習、家庭学習を充実させていく必要がある。

小学校学力経年調査における、「毎日、同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を81%以上にするという目標に対して、全学年の平均は78.9%となり目標は達成できなかった。学年別に見ると高学年は80%以上で達成しており、中学年が達成できていない。今後、規則正しい生活ができるように啓発していくが、スマートフォンなどの使用時間とも関係が深いように感じている。

【学びを支える教育環境の充実】

授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の87%以上にするという目標に対して、活用率が90%を超えており目標は達成した。これは、児童がすぐに活用できるようにタブレットを個人機の横に配置し、普段使いの文房具として活用を進めてきた結果といえる。今後も便利なツールの一つとして活用を促進していく。

第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を79%以上にするという目標に対して、93.3%で達成した。

しかし、根本的な業務量は大きく変化していないため、持ち帰りやテレワークでの業務が一定時間ある。それらの時間外勤務に反映されない業務について、削減させるために学校として調整はしていくが、学校単位で調整するには限界もある。国の動向を注視し、市教育委員会とも連携しながら引き続き対策していきたい。

(様式2)

大阪市立柏里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安心・安全な教育の推進】 年度目標 ○本市調査における「学校から帰ってから、スマートフォン等を使用して、平均でどのくらいSNS、動画視聴、ゲーム等をしていますか。」に対して、3時間以上と回答する児童の割合を27%以下にする。(R6 3年 29% 4年 24.5% 5年 36.2% 6年 50%) ○小学校学力経年調査における「将来の夢や目標をもっていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を88%以上にする。 (R6:③86.9 ④83 ⑤91.5 ⑥86.1)</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	中間	最終
<p>取り組み内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】 ・学校や家でのきまりを守って健康に努める。</p> <p>指標 ・生活チェック週間で1日のSNS、動画、ゲーム等使用時間を学年で設定し、決めたことを守れるようにする。(目安1・2年 30分 3・4年 1時間 5・6年 2時間)</p>	C	C
<p>取組内容②【基本的な方向2 安心・安全な教育環境の実現】 ・目標を立て、それに近づけるように学校生活を過ごす。</p> <p>指標 ・全学年でキャリアパスポートに「将来の夢」もしくは「どんな大人になりたいか」の欄を設定し、毎学期振り返りを行う。 ・3年～6年で「将来の夢」や「どんな大人になりたいか」のためにできることをいつでも目にするような身近なところに書いて持っておき、意識できるようにする。(音読カード、連絡ファイル、連絡帳など)</p>	B	B

【中間評価】

取組内容①

市の SNS・動画視聴のアンケートは未実施だが、校内の児童アンケートでは、SMS の視聴時間を決めて守れていると肯定的に答えた児童は70%で守れていないと否定的に答えた児童は30%（守れていない児童は15%）となった。全体での結果となるが、学年別に見てみると高学年になるにつれ視聴時間を守れていない。所持している割合が高学年につれて高くなり使用頻度も増えることから数値も悪くなっていく。

今後の手立てとしては

- ① 生活チェック週間は今まで通り続ける。
- ② 生活チェック週間で早く寝ることを意識させる（視聴時間を減らす為）
- ③ 生活年間目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析【中間評価】チェック週間が始まることを事前に家の方にミマメルメールで連絡し、家庭でも準備をしてもらう。
- ④ 視聴時間が長くなると目に悪い、脳に良くないことを保健室で測定などがあるときに指導してもらう。
- ⑤ 週間外でもできてきているか学級でチェックする。

家庭の問題でなかなかやりにくいところはあるが、何もしなければ悪くなる一方なので引き続き啓発していく。

取組内容②

はっきり目標を持っている、漠然としているが持っているなどさまざまではあるが、目標のためにできることを進められており、良いきっかけとなっている。

学級での取り組み例として机に貼る、連絡帳にラミネートして貼る、PC の待ち受け画面に設定するなどがある。まだで掲示できていない学級もあるようなのですべての学級で掲示していく。

中間評価を踏まえた年間目標の達成状況や分析、次年度への課題【最終評価】

取組内容①

校内の児童アンケートでは、SMS の視聴時間を決め、守れていると肯定的に答えた児童は69%で守れていないと否定的に答えた児童は31%（まったく守れていない児童は15%）となった。

2学期の児童アンケートとほとんど違いがなく学年別の1年生では、きちんと決められた時間を守れていて保護者の方の管理もきちんとできているように感じる。ただ、2年生以上で守れていない児童が増えてきつつあり、ルールが守れていなかったり、子どもに時間の管理を任せてしまったりしているように感じる。

また、低学年ではチェック表を生かし、守れていない項目について児童から守れなかった理由を聞き、すぐに改善に向けた行動を取るような指導はしやすいが、高学年になってくると使用時間の把握もあいまいなこと、指導する人数も増えることなどから指導しにくい現状がある。

今後については家庭・学校のルールを守れるように決めたことをその都度話していくようにする。その際、学校も家も同じことを子どもに伝えていく必要がある。そのために

- ・生活チェック週間に入る前に現児童アンケートや経年調査結果の現状を家庭に伝える。

現状は肯定的69% 否定的31% また、市の調査で特に高学年で視聴時間が長くなっていることを知ってもらい、健康面や学習面に悪影響が出ていることを分かってもらう。

（視力、学力、思考力、コミュニケーション力の低下）

- ・現状を踏まえて学校で取り組んでいることを知ってもらう。（生活習慣チェック表、保健指導）

取組内容②

やり方はさまざまだが3学期までに全員が目標を掲げ、身近な場所でいつでも確認できるように取り組んできた。その結果、児童アンケートでは将来の夢や目標を持っていると肯定的に回答した児童が89%にのぼった。年度目標の88%も超えることができたのでこのまま取り組みを継続させていきたい。

(様式2)

大阪市立柏里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
	C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の学力に課題の見られる児童の割合を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 (R6 3年 8.8% 4年 15.2% 5年 48.7%) *市平均の7割以下</p> <p>○小学校学力経年調査における、「毎日、同じくらいの時刻にねて、同じくらいの時刻に起きていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を81%以上にする。 (R6 ③81.5% ④73.6% ⑤80.8% ⑥82.6%)</p>	B

年度目標の達成状況と取組の進捗状況	中間	最終
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別授業、少人数指導、TT による指導など、単元ごとに児童の実態に合わせた指導方法を取り入れ、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 算数の学力に課題の見られる児童を中心に放課後学習の充実を図る。 校内研究を通して指導力の向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。 	B	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 週1回の学年打ち合わせの際に児童の実態について学年団で共有し、よりよい指導形態を考える。 会議のない日はどの学年も毎日放課後学習ができる体制を整える。 教員の公開授業を年間20回以上、スクールアドバイザー等を指導要請した研究授業・研究討議会を年3回実施する。 		
<p>取組内容④【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体育的行事や体力づくりにつながる遊びを充実させて、運動習慣の定着と児童の体力向上を図る。 安全・安心な校内環境、教育環境づくりに努め、自主的な健康管理及び規則正しい生活習慣の態度を育てる。 	B	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校のきまりとして、「運動場が使えるときは、1日1回は運動場に出て遊ぼう」という目標設定を行う。 学期に1回、生活チェック表を活用しての健康週間の実施や保健指導を行う。 		

年間目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析【中間評価】

取組内容③

- 週一回の学年打ち合わせの時間に、児童の実態や次週の学習内容、支援体制、指導形態などの話し合いができています。
- 毎日放課後学習ができる体制は整っている。
→児童の実態に合わせて個別に指導を行うことで、わからないことを解決できるようにしている。
→実施できているが、実際指導する人数が不足し児童の学びにつながらないこともまだある。
→補助的学習ではなく、宿題等やるべき家庭学習をしていない児童、不十分な児童の指導時間となっているケースも多く、家庭学習の不十分さを感じる。
- 計画通り校内研究を通して指導力の向上を図って「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指しており、年度末には指標の内容を達成できそうである。

取組内容④

- 「1日1回以上運動場で遊んだり運動したりする」と肯定的に答えた児童は75%、「運動するのが好きである」は85%であった。
→体育のない日はみんな遊びに取り組むなど、1日1回は出るという目標があることをわかっているため、1度は外に出ようとしている様子が見られる。
→1日1回外に出て遊ぶという決まりはあるが、暑い時期が長引いたため、外に出たがらない児童が多かった。こちらとしても熱中症も警戒しなければならず、必ず外に出るようには指導しづらかった。
- 生活チェック週間の設定やほけんだよりの配布により、健康に関しての意識の向上と振り返りができている。

中間評価を踏まえた年間目標の達成状況や分析、次年度への課題【最終評価】

取組内容③

- 週に一度、学年打ち合わせを設定し、児童の様子、学習内容、次週の予定、支援体制などを話し合い共有することができた。こまめに報告し合い共有することで、学年で声かけができ、児童へのよりよい指導に繋がった。
- 放課後学習の充実を図ることができた。しかし、補助的学習ではなく、宿題等やるべき家庭学習をしていない児童、不十分な児童の指導時間となっているケースが多かった。家庭学習の定着を図ることが課題である。放課後学習の機会をさらに増やすには、会議等の精査が必要。
- 計画通り校内研究を通して指導力の向上を図り、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すことができています。次年度は区の発表に向けて考えていく必要がある。

取組内容④

- みんな遊びの実施や、学級での声かけにより、1日に1回は外に出て体を動かしている児童が多い。かけあし週間やなわとび週間の実施、がんばりカードの使用により、運動習慣の定着と児童の体力向上を図ることができた。
- 学期に1回、生活チェック表を活用しての健康週間の実施や保健指導は計画通りに行われた。振り返りと、継続できるような声かけが必要。

大阪市立柏里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した	B: 目標どおりに達成した
C: 取り組んだが目標を達成できなかった	D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の87%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] (R5 データなし) (R6 86%)</p> <p>○第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準Iを満たす教職員の割合を79%以上にする。(R5 71.4%) (R6 78.5%)</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	中間	最終
<p>取組内容⑤【基本的な方向6 教育DX(デジタルトランスフォーメーションの推進)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン使用のルールを守って学習端末をつかうことができる。 ・教科書のQRコードを読み取り、学習を深めることができる ・自分の考えや意見をスライドなどにまとめ、全体で交流することができる <p>指標・学期に1回以上教科書のQRコードを読み取り、学習を進める</p>	B	B
<p>取組内容⑥【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外勤務削減のために会議を開始時刻通り始める。 ・学年団、校務分掌、教科領域部会等で計画的に連携を図り、一部に偏りなく職務が遂行できるよう意識する。 ・各自で定時退勤または早めに退勤する日を設定する。 <p>指標・基準Iを満たす教職員の割合を80%以上</p>	B	B
<p>年間目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析【中間評価】</p> <p>【中間評価】</p> <p>取組内容⑤</p> <p>○授業研究にもICT活用の指標を設定し、活用に努めている。教科書のQRも充実しているので活用している。スカイメニュー、発表ノートを活用している。</p> <p>パソコンの使用ルールに関する確認、見直しが必要。必要ない検索、ゲーム、デスクトップ画面の変更、アイコンの変更</p> <p>取組内容⑥</p> <p>○定時退勤への意識向上</p> <p>勤務時間外にパソコンを持って帰って仕事をしなければ回らない。勤務時間内で教材研究などをする時間はほとんど取ることができていないため、土日に家でやる業務もある。</p>		

中間評価を踏まえた年間目標の達成状況や分析、次年度への課題【最終評価】

取組内容⑤

- 大部分は教科書の QR、発表ノート、スライド等学習端末の活用を図ることができた。
- 一部活用の仕方に課題が残るため指導することで改善を図る。

【次年度への課題】

- 柏里 PC 活用ルールの確立→各クラスに配布徹底→各クラスに配布
 - ・下校時に必ず保管庫に戻し、次の日の学習に備えて充電する。
 - ・学習で使用したいときに使えない状況をなくす。タッチペンの破損、紛失時の対応、貸し借り×
 - ・学習につながらない不必要な検索、ゲーム等は禁止（プログラミング学習等で自作のゲームは可）
 - ・チャレンジタイムで週1回タイピングを取り入れ、学校全体でタイピング力を継続指導してはどうか

取組内容⑥

- 定時退勤の意識の向上は徹底できていた。効率的に仕事ができるような工夫が必要。
 - ・会議=開始時刻厳守 内容の精選 内容事前把握
 - ・職タメモ、スキップ連絡の活用により対面職タを1回とし、個人裁量の時間確保。
- 一部の職員に業務が偏らないように分担できる連携システム、パターン（教科領域・学年団・組織で対応）を構築。

【次年度への課題】

- 対面職タを週1回とし、個人裁量の時間を確保する。
- 学校行事の改変、精選、削減、数年後を見通した段階を踏んだ移行